

声明 アジア太平洋法律家協会（COLAP）はバングラデシュで起きたテロ攻撃を非難する（翻訳）

著者	アジア太平洋法律家協会，清末 愛砂
雑誌名	INTERJURIST
号	190
ページ	12-12
発行年	2016-10-01
URL	http://hdl.handle.net/10258/00009479

声明 アジア太平洋法律家協会 (COLAP) は バングラデシュで起きたテロ攻撃を非難する

2016 年 7 月 3 日

アジア太平洋法律家協会 (COLAP) は、バングラデシュのダッカで起きた恐ろしいテロ攻撃を強く非難する。宗教過激派のテロ・グループは2017年7月1日の夜、ダッカにある外国人が多数いる地域のカフェで人質を取ったまま立てこもり、16人の外国人を含む20人の人質を残酷に殺害した。

アジア太平洋法律家協会は被害者を追悼するとともに、その身内や友人の悲しみを共有する。またアジア太平洋法律家協会協会は、誠実かつ危険な試みを実行し、この度の危機から人質や犠牲者を救出するために自らの生命を犠牲にしたバングラデシュの治安部隊へ感謝の気持ちを示したい。本事件は、バングラデシュが自立した国家としてその姿を現しているときに、テロ・グループが同国と南アジア地域の安定を揺るがすために仕組んだ攻撃であったと明確にいうことができる。

第6回会議アジア太平洋法律家会議は、地域および世界が抱える脅威として、宗教過激主義とテロリズムの脅威の増大に対する懸念を表明した。今回のダッカでのテロ攻撃はまたしても、宗教に基づくテロと原理主義が世界平和、自由な発想、および人類全体に対する重大な脅威を構成することを証明するものとなった。また、本攻撃は宗教の政治利用が過激派によるテロの脅威を疑いなく構成することを証明するものとなった。

アジア太平洋法律家協会執行委員会は、平和を愛するバングラデシュ、イタリア、日本、インドの人々と連帯することを表明する。また同協会はアジアや国際社会の法律家に対し、このようなテロを根絶するために互いに手を結びあうことを呼びかける。

(翻訳：清末愛砂)